

田辺かずき 市政報告

オール古賀を实践！
まちづくり推進中！

県市通算第55号
(市政第1号)

2019年5月発行

<田辺かずき事務所>
〒811-3103 福岡県古賀市
中央 1-6-41-203
TEL : 092-692-8510
FAX : 092-410-7730
メール : challenge@
tanabe-kazuki.jp

【4ページ拡大版】

- 新たなビジョンを公表 ……2
- 国際交流と多文化共生……3
- まちのイメージ向上へ ……4

産業・子ども・健康で地域振興 広域連携と情報発信も推進

福岡県古賀市長に就任し、約5カ月が経過しました。息つく間もなく、毎日を全力で走り続けているというのが実感です。県議としての2期8年の経験を生かし、地方自治体の経営者として、スピード感を持ってまちづくりを進めていくことを常

に意識しています。日々、あらゆる市政課題に向き合い、解決するためにさまざまな決断をしています。

すべての前提にあるのは、私たちが享受しているよりも豊かな地域社会を次の世代につないでいくこと。これが先行世代の私たちが果たすべき「未来への責任」であり、だからこそ中長期的な視野で地域振興を図らなければなりません。

私の任期は2022年（令和4年）12月までの4年間です。そこで、まずは古賀市がめざすビジョンを策定しました。「持続可能

な都市に向けた経営方針」として、「産業力」「子ども」「健康・安心」の大きく3つの観点でまちづくりを推進することを明確に示しています。そのうえで、このビジョンに基づき、2019年度の当初予算を編成しています。これらについては、公約に掲げた「予算編成の見える化」と「オール古賀」を実現する前提として市のホームページで公表し、対話集会でも活用しています。

新たな政策を打ち出すとともに、自治体としての情報発信も強化。新聞やテレビで古賀市に関する報道が増えていきます。皇位継承に伴う10連休に「特別休日保育」を実施すること

を決断し、子育て世代への支援を強化しました。18歳を成人とする民法改正後も20歳で成人を祝う行事を行うことを他の自治体に先駆けて公表しました。今年日本で開催されるラグビーワールドカップや来年の東京オリンピックに向けても積極的に取り組み、国際化への対応や多文化共生を推進するためにタイや台湾との新たな交流を生み出しました。さまざまに試みは、古賀市のイメージを高め、定住促進や経済活動の活性化につながるねらいがあります。

地域振興を図るため、JR古賀駅の周辺整備や今在家地区などの土地利用転換と企業誘致の推進、農業基盤整備などの産業振興策にも着手しています。どんなに迅速に取り組んでも、その成果として「形」が見えてくるのは5年後、10年後。だ

からこそ、丁寧に合意形成を進めながら決断すべき時に覚悟を持って決断し、前に進めていきます。

県議だった強みを生かし、広域連携の推進にも力を入れています。培ってきた人的ネットワークを生かし、市長就任直後から知事や県議会はもちろん、周辺の宗像、福津両市、糟屋郡の市町長の皆さんとのコミュニケーションを意識的に図っています。



各地で対話集会を開催。市政課題を共有し、ご意見をいただく＝庄南区、4月26日

これからも全力で地域を回り、「対話」と「交流」を起点として「現場主義」に立脚した市政運営を徹底します。よろしくお願いたします！

経営方針を打ち出し、新政策を展開！



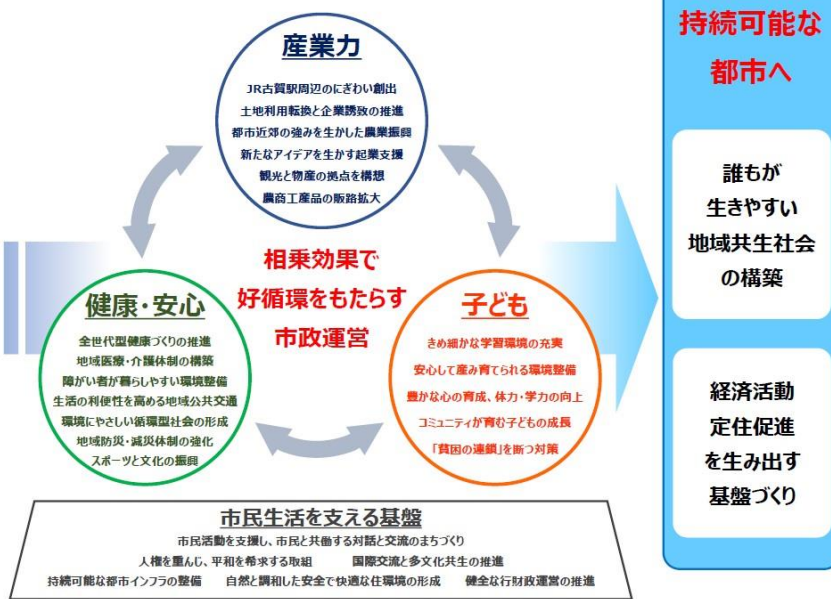
2019年度の施政方針演説を行う＝2月28日、古賀市議会本会議

公約を盛り込み「新たなビジョン」公表！

2019 → 2020 以降の未来に向けて

持続可能な都市に向けた経営方針

<第4次古賀市総合振興計画の基本目標の達成とこれからの市政運営に向けて>



市民の皆さまとともにまちづくりを進めていくためには、市行政がどのようなビジョンのもとに取り組もうとしているのか、共有する必要があります。そこで、私の市長としての経営方針を分かりやすくお示ししました。私は市長選挙で「予算編成の見える化」を掲げており、この実践でも

あります。つまり、公約を果たす営みです。このビジョン「持続可能な都市に向けた経営方針」と2019年度当初予算を市議会にもお示しし、3月の定例会で当初予算を可決していただきました。市行政として初めて当初予算のポイントをもとめた資料も作成し、ビジョン

とあわせて市のホームページ（HP）で公開しています。

ビジョンは、私が所信表明で示した理念を踏まえ、庁内で議論を重ね、構成しました。見ていただくと、少子高齢化や人口減少、社会保障費の増大など市が直面している大きな課題を整理したうえで、市の歴史的な経緯や特性を踏まえ、「産業力」「子ども」「健康・安心」の3つの観点でまちづくりを進める方針を示しました。

そして、私たちの暮らしを取り巻くさまざまな課題を解決するため、個々の政策の実効性を高めるとともに、政策が相互に作用し合い、相乗効果で好循環をもたらすことを強く意識しています。こうした取り組みを重ねることで、経済活動や定住促進を生み出す基盤づくり、誰もが生きやすい地域共生社会の構築を進め、未来に向けて持続可能な都市の実現に努めています。

2019年度当初予算の主なポイント

2019年度の当初予算は、一般会計で総額213億5400万円。前年比4.1%の増加となっています。健全な財政運営を意識したうえで、新たに打ち出したビジョンに沿い、できるだけ多くの市民ニーズに対応しながら市政課題を解決していくことを念頭に編成しました。

特に、農工商の魅力をもつ産業力の強化として、長年の懸案であるJR古賀駅周辺の再開発に向け、対象地域の都市計画決定に関わる事前調査の実施を盛り込みました。土地利用転換と企業誘致の推進、都市近郊の強みを生かした農業振興、新たなアイデアを生かした起業支援にも取り組みます。

子どもたちの育ちと学びを支える「チルドレン・ファースト」を実践するため、市内小中学校の全ての普通教室・一部の特別教室に空調を整備します。古賀市が誇る原則35人以下の少人数学級を継続し、小学校適応促進補助員を全学年に拡大するなど人的配置を充実させ、きめ細かな学習環境につなげます。安心して生み育てられる環境整備のため、保育園や幼稚園と連携した保育士の確保や病児保育施設の増設支援などに取り組みます。千鳥児童センターに学習室を整備します。

誰もが健康で安心して暮らしていける地域社会をめざし、全世代型の健康づくりや地域医療・介護体制の構築を推進します。公約だった小児がん治療等で予防接種の免疫が失われた場合の



記者会見でビジョンと当初予算を公表＝2月25日

「再接種」に対する費用の助成を開始します。持続可能な公共交通体系の確立をめざし、地域公共交通網形成計画の策定に着手し、古賀市公共施設等連絡バス「コガバス」の停留所を増設するなど運行を改善します。家庭から排出される剪定枝のリサイクルを市内全域で試行します。

このほかにも避難行動要支援者の個別計画策定の促進をはじめとする地域防災・減災体制の強化、国史跡・船原古墳の出土品の図版化や遺物のCG化、スポーツ振興など多くの予算を盛り込んでいます。とても全てを書ききれませんが、市HPで公開していますのでぜひご参照ください。もちろん対話集会でも説明していきます。

国際交流と多文化共生の推進で地域振興へ

県議経験生かし、台湾やタイにPR 総領事らが古賀の農家視察も



台湾の九州の責任者（写真右）が
筵内のあまおう生産現場を視察

国際交流と多文化共生の推進は公約にも掲げた重要なテーマです。経済的・文化的・人的なネットワークが国境を越えて形成される現代、外国人の皆さんとともに生きていく地域社会をつくっていくかなければなりません。私は市長就任以来、県議時代の国際交流の経験を市政に直接つなげていきます。

3月には、台湾の総領事館にあたる台北駐福岡経済文化弁事処の陳忠正・処長（総領事）と台湾貿易センター台北本部の黄志芳会長（元外務大臣）をはじめ日本のJAに当たる台湾各地の農業責任者の訪問団が、台湾に輸出している古賀市の「あまおう」の生産現場を視察しました。私は県議時代から農業振興に注力し、2019年度の施政方針でも「農産物の販路拡大のさらなる推進のため、あまおうの海外輸出に向けた検疫対策支援を拡大します」と申し上げており、しっかりと取り組んでいます。

また4月には、昨秋設置された在福岡タイ王国総領事館のアッタカーン初代総領事を表敬訪問し、トップセールスを展開との交流はさらに進むとみられ、古賀市としても積極的にまちづくりにつなげていくべきと判断しています。総領事からも交流促進への前向きな姿勢が示されました。6次産業化の好事例としてヤスタケフアクトリーさんの5色のニンジンジュースも紹介し、とても関心を持ってもらえました。



タイのアッタカーン総領事（写真右）を表敬訪問

福岡の総領事館は昨秋、大阪に続く国内2カ所目として開設されたばかり。これは福岡県議会の総力を挙げた議員外交の大きな成果であり、私も県議時代に福岡県タイ友好議員連盟の事務局長の任で微力ながら関わってきました。古賀市とタイの交流が福岡県や九州の前進につながるよう、自治体としてしっかりと取り組んでいきます。

企業誘致を推進 — 東京でトップセールスも

企業誘致へ向け古賀市の魅力を伝えるため、東京で開催された「福岡県企業立地セミナー」に参加しました。古賀市の「企業立地ガイドブック」をもとに①博多までJRで約20分であることや九州自動車道の古賀ICをはじめとした抜群の交通アクセス②既に食料品をはじめとして多くの企業に立地いただき工業団地が形成されている優位性③これから新たに土地利用転換を図り工業用地をさらに確保していく方針を申し上げ、多くの企業の皆様に関心を持っていただけた。土地利用転換と企業誘致の推進に向け、2019年度に古賀市都市計画マスタープランを改訂し、今在家地区、新原・高木地区を盛り込むなどしていきます。ご注目ください。

ラグビーW杯と東京五輪・パラリンピックを 盛り上げましょう！

今年9月から日本で開催されるラグビーワールドカップ（W杯）は、福岡県でも試合が行われます。日本代表の福岡堅樹選手は古賀市出身。母校・青柳小学校でタグラグビー（タックルなど接触プレーをなくした安全性の高いラグビー）の授業が行われ、子どもたちは笑顔で元気に授業に励んでいました。会場には福岡選手の等身大パネルやサインボールも。最後はみんな「福岡選手、頑張れ！」と激励のメッセージを送りました。古賀市では市内すべての小学校で、タグラグビーを体育の授業で実施しています。引き続きラグビーワールドカップを全力で盛り上げていきます。



青柳小学校のタグラグビーの授業で
福岡堅樹選手の活躍を紹介

加えて、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、古賀市と福津市がルーマニアのホストタウンに登録されました。3月、同国トップレベルの柔道選手たちが来日し、両市を拠点にトレーニングに励みました。福津市の武道館では、選手と両市で柔道を学ぶ子どもたちが一緒に稽古をし、質問タイムも盛り上がりました。国際交流と多文化共生につながる貴重な体験になったと思います。両市で連携し、ホストタウンとして様々な取り組みを推進していきます。



「水の特命大使」に国内屈指のポーターサー 小野生奈さんを任命

今年度、水道課と下水道課を統合し「上下水道課」を新設しました。古賀市は過去に大規模な渇水も経験しており、広く市民の皆さまと水の大切さを共有することが重要だと考えています。そこで、市からの情報発信の強化策として「水の特命大使」を新たに設け、市出身のポーターサーで2018年の賞金女王の小野生奈さんを任命しました。水上で仕事をする小野さんに、これから全国各地を回る中で多くの皆さまに水の大切さを伝えるとともに、古賀市の魅力も発信していただきます。



古賀出身の漫画家くらのさんを応援！

古賀市出身の漫画家、くらのさんが市役所を訪ねてくださり、対談させていただきました。日本舞踊の青春物語「さんさん様」で単行本デビューされたばかり。スタートはSNSのLINEでの連載で、国際交流の推進も意識されているとのこと。応援よろしくお願いたします！



まちのイメージ向上へ — 新たな政策を展開中

民法改正後も「20歳」での成人式実施を表明 県内で先駆け

民法改正に伴い、2022年4月に成人年齢が20歳から18歳に引き下げられることになりましたが、古賀市ではこれまで通り成人式は「20歳」で実施することに決定しました。当事者や保護者の皆さま、関係する事業者の皆さまに配慮し、県内でも先駆的に検討を進め、早めに決断しました。

この間、若者を含む市民の皆さま、事業者の皆さまなどの声を聴かせていただき、慎重に検討を進めてきました。その結果、①高校3年生に当たる18歳は進学や就職に向けた準備が多忙である②家庭（保護者）にも時間的制約や経済的負担がある③飲酒や喫煙など20歳のままのものも残る④美容室や貸衣装などの事業者にも大きな影響を与える——などの理由から、新成人やご家族、地域の皆さまに配慮しながら有意義な成人式を実施するため、「20歳」での実施を決めました。名称は「20歳のつどい（仮称）」などを検討しています。

市役所のオフィスに「フリーアドレス」を先行導入



4月1日、水道課と下水道課を統合する組織再編を行い、新たに「上下水道課」がスタート。これまでの水道課庁舎をリフォームし、先進的な「フリーアドレス」（職員が固定の席を持たず、内容や状況に応じて席を使い業務を行う）のオフィスを採用しました。民間企業でも導入が進み始めていますが、行政では珍しく、古賀市としても初の試みです。メディアの注目を集め、新聞各紙でも報じられました。

料金窓口を一元化し、お客さまスペースを拡大。水をイメージした明るい色合いを基調とした開放的な空間で、木質化も図っています。働き方改革も念頭に置き、職員に固定の自席を設けないことで省スペース化を図り、職場内コミュニケーションの活性化も期待できます。また、市は官学連携を推進しており、設計・デザインを九州産業大学建築都市工学部住居・インテリア学科の福山秀親教授と学生の皆さんにご協力いただきました。

令和の始まりを市民の皆さまとともに



令和を大書！5月1日、古賀市文化協会さんがイベントを企画。私は大きな筆で「令」の字を担当し、市民の皆さんと力をあわせて「令和」を完成させました。多くの子どもたちも参加し、とても盛り上がりました。また、市として、婚姻届を提出するお二人のため、記念撮影用のバックパネルや手作りの各種アイテムを準備し、私も撮影をお手伝いしました。

皇位が継承されました。前の天皇皇后両陛下に心から感謝します。退位は「国民の共感」を受けたものであり、新しい令和の時代も、主権者である私たち国民一人一人が、日本国の伝統と民主主義、憲法と「象徴」について深く考え続けていくことが大切です。

【情報の発信について】

田辺かずきの活動にご理解とご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。県議時代から日常的な情報発信を大切にしていますが、こうした報告書は紙媒体のため、発信できる情報の量に限界があります。市長となり、発信すべき情報量も増大しています。今後できる限り発行していきますが、皆さまにおかれては、ぜひ、私自身が毎日多くの情報を発信しているインターネットのブログやフェイスブック、ツイッター、インスタグラム、LINEを読んでいるだけで幸いです。毎日の私の活動、市政の動きをリアルタイムにつかむことができます。よろしく願っています。

全ての小中学校を訪問中 市長として「子どもの声」を聴く

4月の古賀市議会議員選挙期間中、古賀中学校で実際に配布されている市議選の選挙公報を使って地方自治の意義について分かりやすく説明しました。特に二元代表制における首長と議会の役割が伝わるよう、強く意識しました。主権者としての意識を涵養するうえで「本物」の活用は最も効果がある手法のひとつと考えます。実際に選挙が実施されるタイミングに合わせて主権者教育を行うよう県議時代に提言しており、今回自ら実践しました。



母校の古賀中学校で実際の選挙公報を使って主権者教育を実施＝4月17日

私はまちづくりに子どもたちの感性を生かしていくことを大切にしています。このため、市長就任以来、市内全ての小中学校を給食の時間に回り、その機会に子どもたちとの対話も実施しています。3月には花鶴小で、地方自治がどのような仕組みになっているのか、限られた予算の中で皆様の要望に応じていくにはどうすべきかなどについても分かりやすく説明しました。なお、東京オリンピックで古賀市がルーマニアのホストタウンになっていることから、この日の給食の献立はルーマニア料理。様々な機会を通じて国際理解教育も推進しています。

子育て支援を強化 — 10連休に 「特別休日保育」実施

皇位継承に伴い10連休になることを受け、市として独自に「特別休日保育」を実施しました。期間中、事業者の皆様にご協力いただき、久保保育園で実施している通常の休日保育に加え、花見光こども園、ほづみこども園、花鶴どろんここども園の3園で特別に休日保育を3日間実施。「チルドレン・ファースト」の理念に基づく子育て支援策の強化として、保護者の皆様が安心して就労できる保育サービスを提供しました。

近隣大学との連携でまちづくりを推進！



福岡女学院看護大学のシミュレーション教育センターで体験

古賀市として様々な取り組みを推進するため、近隣大学と連携協定を締結しています。就任後、福岡女学院看護大学と結んでいる連携協定に基づく協議会を開催し、これまで培ってきた様々な連携の成果や同大学の先進的な取り組みを踏まえ、意見交換。あわせて看護大学としての設置は全国でも珍しい「ICU（集中治療室）」「病院4床室」「周産期（分娩など）」「在宅」の4種のシミュレーション教育センターを視察しました。

現在、古賀市と福岡女学院看護大学が協力し、市内の小中学校における骨密度等の健康測定やヘルスステーションの設置、妊婦の方やそのご家族への支援など多岐にわたる事業を展開。また、同大学は在住外国人や外国人観光客の増加に対応できる人材の育成のため、「多言語医療支援コース」を開設。国際交流と多文化共生を推進する市にとっても大変ありがたい取り組みです。

さらに、新たに福岡女子大学とも包括連携協定を締結しました。福岡女子大学の強みとして「食」「健康」や「環境」などが注目されており、市として今後さらに健康増進策に幅を持たせ、全世代型の健康づくりにつなげていきたいと考えています。また、食育の推進や循環型社会の形成に向けた省エネルギーの推進などでも連携が期待できます。